



令和6年6月28日
7月号 No.461
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川623

見方を変えること

副校長 浅井 博行

梅雨に入りましたが、厳しい暑さが続いています。環境省熱中症防止予報であるWBGT（暑さ指数）が、「警戒」や「厳重警戒」の日が増えてきています。学校では外遊びや体育、水泳学習の実施について、計測器の数値により実施の判断をしています。「子どもたちの大切な命・健康をしっかりと守ることを第一優先」として教育活動を進めていきたいと思えます。ご家庭でも、熱中症を予防するために以下の点をご確認ください。

◎「暑さを避けましょう。」

屋外で活動する際は帽子をかぶり、少しでも体調に異変を感じたら涼しい場所へ移動し、水分を補給する。※登校時は、帽子をかぶらせてください。

◎「こまめに水分を補給しましょう」

のどが乾く前に、こまめに水分を補給する。屋外で活動する際は、塩分も補給する。

◎「日頃から健康管理をしましょう」

夜遅くまで起きていたり、朝食を抜いたりしない。体調が悪いと感じた時は、無理をせずに休養する。

また同時に、「暑さに負けない、健康な体やたくましい心を育てていきたい」とも考えています。安全第一としながら、ご家庭と協力し、少しずつ心身の強さを高めていければ幸いです。

さて、「子どもを叱る」これは、どの家庭でも行われているのではないのでしょうか。もちろん、私の家庭でもあります。叱ることが悪いというわけではありません。

ここで考えてみたいのですが、なぜ叱るのでしょうか。叱った結果、どういう状態になることを望んでいるのでしょうか。望んだ通りの結果になれば、その「叱る」は効果的だったと言えるでしょう。しかし、何度も同じように、繰り返し叱り続けても特別な変化もなく、場合によっては悪化しているとしたら、それは「叱る」というアプローチが間違っている可能性があります。

人は、ついつい自分の価値観で物事を捉えてしまいます。しかし、似ているところはあるものの、自分と全く同じ価値観を持っている人はいません。親の価値観で子どもに対応してしまうことが多いのですが、子どもには子どもの価値観があります。親子がぶつかるケースは、その不一致のために起こることがほとんどだそうです。

子どもたちが自主的に行動するという姿は、どのご家庭でも望む姿だと思います。そのためには、色々な経験をする必要も必要でしょう。時には失敗をすることもあっていいでしょう。そこで「叱る」という選択肢だけをとるのではなく、良い点を見て「認める」という選択肢をとることが大切だと感じています。

この学校だよりを読んだ今から、ちょっと見方を変えてみませんか。「あ、こんな良いところがあるんだ。」を見つけてみてください。それが第一歩になると思います。